

庁議の概要

開催日 平成20年9月16日(火)

項 目

1 各部局等の動向について【各部局等】

内 容

1 各部局等の動向について【各部局等】

政策企画部が取りまとめた各部局の今週の動きに関する資料を配布のうえ、各部局等より概要説明があり、意見交換を行った。

【説明概要】

- ・国立室戸青少年自然の家について、例年下半期の稼働率がよくないことから、施設の存続に向け利用をお願いしたい。
- ・県内企業が商品の販売促進や企業同士のつながりを持つために、東京事務所が運営に携わっている県人会やそこでこの行事を、さらに活用していくべきであると東京の企業コーディネータから指摘があった。

その他

〔知事〕

- ・「県政改革に関する検証委員会」の取りまとめに関して、二度とモード・アバンセ事件の様な事件を起こさないための県政について、様々な指摘をいただいております。今後、これを具体化していくための取り組みを進めていかないとはいけません。今回の検証に関しては、決してもう一度この事件を掘り起こして誰かを罪に問うということではなく、県民に、二度とこのような事件を起こさないということを示し、この事件と真に決別をし、前向きに仕事ができる体制をつくるのが大切である。
- ・検証委員会では、かなり客観的な検証をいただいております。今後、改革本部といった庁内に新たな組織を立ち上げ、検証の結果を踏まえた具体的な検討あるいは対応をしていくことになる。
- ・大切なことは、モード・アバンセ事件の様な事件を二度と起こさないために、外部から意志決定のプロセスが見える、また外部の人も見ている組織でないとはいけませんし、もう一つ大切なことは、透明性や問題を起こさないといったことを重んじるあまり、組織が萎縮してしまうことでも良くないと思う。むしろ、みんなが見ている環境の中で、どんどんと外へ向かっていく組織でないとはいけません。
- ・交通事故を絶対に起こさないために車に乗らないでは仕事が進まないように、仕事はしっかりと外の人とも関わってしていく一方で、公平・公正で絶対にモード・アバンセ事件の様な事件を起こさないといった、アクセルとブレーキのバランスの取れた組織でないとはいけません。また、問題を恐れるあまり萎縮する、外部との関わりを絶つといったことでもいけません。しっかりとアクセルを踏みながらも、踏むべきブレーキはしっかりと踏める組織づくりを行っていかないとはいけませんと考えています。